



＊第20回＊

島田里子

NHK

テレビとラジオの 電波を届ける 仕事に関わって

NHKに入局して5年、テレビとラジオの電波を視聴者に届ける仕事に関わってきました。これまでのこのコーナーのリケジョの先輩方のお話を拝見すると、立派な成果のある方ばかりで、経験の浅い私を書くのは恐縮な思いですが、今思っていることを自分なりにつづらせていただきたいと思います。

自己紹介

私はもともとNHKの番組が好きで、子どもからお年寄りまで見られる番組を作っている場所で、広く社会の役に立つ仕事がしたいという思いからNHKに入局しました。

私がリケジョになったのは、きっと手先が器用で実験やモノづくりが得意だったからだろうと思います。小さい頃から本やテレビで見たことを自分で試してみるのが好きでした。中学校に入ると、数学の作図や理科の実験が好きになり、高校で化学研究部に入ったのがリケジョの入り口だったと思います。

物事をシンプルにしていくことでその本質を考える面白さに魅かれて、大学では物理学を専攻しました。研究室では、超高温・高圧状態の水分子の分子振動を研究する分光実験をしていました。毎日、暗い部屋に閉じこもって温度と圧力を変えながらスペクトルをとる地道な作業でしたが、結果が出た

時はとてもうれしく、根気強さも養われました。女子大に通っていたのですが、今の環境から考えると、女性ばかりの理系生活は貴重な時間だったと思います。大学時代の友人は、今でも嬉しいことを報告しあったり、悩みを相談したりできる大切な存在です。

地域放送局時代

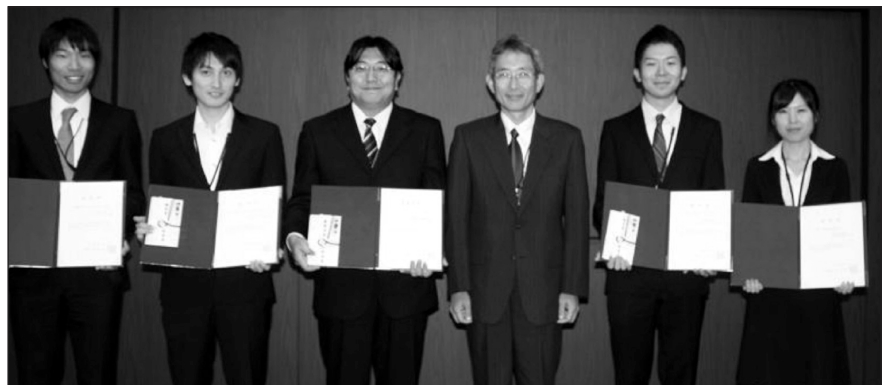
NHKに入局すると、多くの新人はまず全国各地の放送局に配属されて技術のさまざまな仕事を体験します。私は秋田放送局で3年間を過ごしました。

秋田では、県内の視聴者から寄せられる、テレビが映りにくい、ラジオが聞こえづらいといった技術的な相談に答える受信相談業務に携わっていました。最初の頃は、電話の秋田弁が聞き取れず困り果て、お客様を待たせてしまうこともありましたが、困っている人の話を聞いて一緒に考える仕事は自分の性格に合っていたと思います。相手の立場に立って物事を考える、人として大切な姿勢を教わりました。



秋田時代、イベントでの地デジPR

受信相談では、相手に合わせたわかりやすい説明をすることを心がける必要があります。そのことを生かせたと思うのが、番組やイベントでの周知活動や、局内の技術報告会でした。NHKでは年に一度、技術報告会という若手技術職員が研究の成果を発表する機会があります。受信相談業務における課題解決を図るテーマで発表した際には、担当以外の人に対して問題・課題がわかりやすく伝わるよう工夫し、東北で最優秀、全国で特別賞をいただくことができました。上司のアドバイスで、発表の最後にちょっとしたオチを



全国技術報告会の表彰

↑NHK 技術局 計画部
"Engaged in Work to Deliver the Radio Waves of Television and Radio Programs" by Satoko Shimada (Planning Division, Engineering Administration Department, NHK, Tokyo)



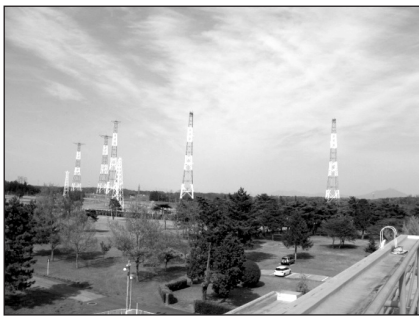
準備していて、会場の皆さんに笑っていただけただけでも理由がかもしれません。ちょうど仕事に悩み始めていた時期だったこともあり、この賞をいただいたことは大きな励みになりました。

現在の仕事

現在は東京に異動し、技術部門の方針や予算をとりまとめる計画部というところに所属しています。計画的な仕事の他にも、どの部署にも属さない突発的な課題を一手に引き受けているような職場です。異動してきてしばらくの間は、秋田局時代との仕事のギャップに戸惑う日々で、特に、着任して一カ月で海外出張に行くことになったのは衝撃的な出来事でした。私に任せられたのは、オランダで開催されたIBC (International Broadcast Conference) で、海外の放送技術の動向を調べる調査業務でした。途中で熱を出して倒れるというハプニングもあり、周りには迷惑をかけてしまったのですが、この調査に行かせていただいたことは自分の視野を広げる貴重な経験になりました。

今の部署で仕事をしていると、たくさんの情報が入ってきて、刺激的で、勉強になることが多いです。経験の浅い私が仕事をする上で、サポートしてくれる周りの先輩方、上司には本当に感謝しています。ただ、力不足で思うようにいかないことも多く、反省の毎日で、1年半経ったいまでも悩みは尽きません。

そんななか、最近取組んでいるNHKならではのと言える仕事が短波ラジオの業務です。NHKは国内だけでなく、世界に向けて短波を使ったラジオの国際



広い敷地にカーテンアンテナが並ぶ短波送信所

放送を行っています。短波は季節や時間によって電波の伝搬特性が変わるため、年に2回、春と秋に周波数を変更しており、その選定・調整業務に関わっています。遠く離れたリスナーのことを思いながら、シミュレーション結果とにらめっこしながら技術検討をしたり、海外事業者や関係各所との調整を行ったりするやりがいのある仕事です。

女性ならではの困難だった点、良かったこと

秋田局時代のお客様対応では、「女では話がわからん、男を出せ」と、電話に出たとたん怒鳴られることもあり、当時は何もしていないのに怒られたことがショックで複雑な思いを抱えました。助けられたのは、訪問先のお宅でテレビの配線不良を解決できた時に「女性なのに苦労しているね、がんばって」と、声をかけてもらったことです。素直にうれしかったですし、頑張ろうと思えた瞬間でした。

職場に戻れば、女だからどうという人はいないですし、今のところ年次が一番下ということもあって、大事に育ててもらっていると思います。まだまだ失敗することも多いですが、成長を見守ってもらっていると感じます。

思うようにしているのは「男女差よりも個人差」ということです。男性にも女性もいろいろな個性があって、その個性の幅に比べたら、男女差なんて大したことない、そう思ってやっていたいと思っています。

女性として将来、働き方を変えなくてはならないタイミングが来たとき、「あのときあれだけががんばったんだ」という自信を持てるようにするためにも、今は精一杯働いていたいと思います。

大切にしているもの、活力の源

大切にしているのは両親と家族です。就職して初めて親元を離れたのですが、初めの頃はホームシックにかかり、実家から秋田に戻る新幹線の中で

は毎回涙が出るほどでした。それを乗り越えて初めて、家族の大切さがわかり、一緒にいる時間を大切に過ごすようになった気がします。

一方で、親元を離れてからはいろいろなことに恐れず挑戦するようになりました。車の運転や、スキー、山登り、また、情報処理や色彩検定、秘書検定、いろいろな資格も取りました。去年は、ずっと挑戦したかったフルマラソンに初めて参加しました。もうだめだと何度も思いましたが、一度も歩かずに完走できたことは自信になりました。たまに楽しく運動して、疲れてぐっすり眠ることが、活力の源になっていると思います。ただ、昔は大人しかったのにどんどんたくましくなっていく私を、母親などは少し心配しているようです。

むすび

自分の友人、先輩のリケジョを見回すと、個性はさまざまですが、好奇心旺盛で、一つのことをじっくり考えることができる人が多いと感じます。

女性が輝く社会と大きな声で言われると、大げさという感じが重たく感じてしまうこともあります。男性も女性も、自分らしくいられることが大事だと思っています。

心がけているのは、いつも元気でいること、向いていないと思ってあきらめずに続けることです。元気になれば、いろいろな人と仲良くなれますし、周りを少し明るくすることができます。自分に向いているのかわからない仕事も、続けていれば自信につながることもあることを実感しています。

テレビ局・ラジオ局の放送技術は、「裏方」の仕事だと思って入りましたが、今の部署に来て、技術は「未来の夢」を作る役割もあると気付きました。与えられた場所で自分にできる仕事をして、小さな力ではありますが、今も未来も視聴者の期待に応え続ける放送に貢献していきたいと思っています。

(2015年1月9日受付)